

第184回 中小企業の景気動向調査

| | |
|--------|---|
| 調査時点 | 2020年6月上旬 |
| 調査対象期間 | 2020年4月～6月実績 2020年7月～9月見通し |
| 調査対象企業 | 当金庫お取引先 1,737社(大阪府内ならびに尼崎市) |
| 回答企業数 | 811社 |
| 回答率 | 46.6% |
| 調査方法 | 調査票郵送および聞き取り調査 |
| 分析方法 | DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 [例:売上DIの場合] 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。 |

| | | |
|--------------------|---------------|--------------------|
| 売上が「増加」した企業 45% | 「変わらず」 20% | 売上が「減少」した企業 35% |
|--------------------|---------------|--------------------|

45% - 35% = 10 ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

| 業種別 従業員別 | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | 飲食業 | 建設業 | サービス業 | 運輸業 | 不動産業 | 計 | 構成比 | 累計 構成比 |
|-------------|-------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|--------|--------|-----------|
| 1～4 | 42 | 22 | 47 | 16 | 32 | 28 | 1 | 45 | 233 | 28.7% | 28.7% |
| 5～10 | 69 | 22 | 13 | 10 | 45 | 17 | 7 | 18 | 201 | 24.8% | 53.5% |
| 11～20 | 72 | 15 | 9 | 5 | 24 | 12 | 8 | 5 | 150 | 18.5% | 72.0% |
| 21～30 | 28 | 8 | 4 | 2 | 11 | 13 | 9 | 2 | 77 | 9.5% | 81.5% |
| 31～50 | 25 | 4 | 0 | 5 | 3 | 9 | 6 | 5 | 57 | 7.0% | 88.5% |
| 51～100 | 16 | 7 | 1 | 0 | 7 | 10 | 6 | 4 | 51 | 6.3% | 94.8% |
| 101～ | 12 | 3 | 1 | 2 | 1 | 4 | 4 | 0 | 27 | 3.3% | 98.2% |
| 無回答 | 3 | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 4 | 15 | 1.8% | 100.0% |
| 計 | 267 | 82 | 77 | 41 | 126 | 94 | 41 | 83 | 811 | 100.0% | |
| 構成比 | 32.9% | 10.1% | 9.5% | 5.1% | 15.5% | 11.6% | 5.1% | 10.2% | 100.0% | | |



(製造業の内訳)

| | | | | | | |
|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|
| 食料品 | 繊維 | 木材 | 家具・建具 | パルプ・紙 | 印刷 | 化学 |
| 4.6% | 11.5% | 1.5% | 1.1% | 1.1% | 10.3% | 6.1% |
| ゴム・革 | 鉄鋼 | 建材 | 非鉄金属 | 金属製品 | 電子部品 | その他 |
| 2.7% | 9.6% | 1.1% | 3.8% | 33.2% | 3.4% | 10.0% |

売上DIは-70.3（前回比△45.2ポイント）、収益DIは-67.7（前回比△42.6ポイント）と急落し、売上DIはリーマンショック後に記録した-56.1をはるかに超え、当金庫調査開始以来（1974年8月）最低を記録しました。

全業種で売上DIが急落していますが、特に運輸業は-80.6、飲食業は-78.1、小売業は-77.9と壊滅的な打撃を受けています。運輸業では消費の低迷から物が売れず物流が停滞した影響が出ています。飲食業や小売業では、インバウンド需要の減少や消費者の外出自粛要請による影響を大きく受けています。

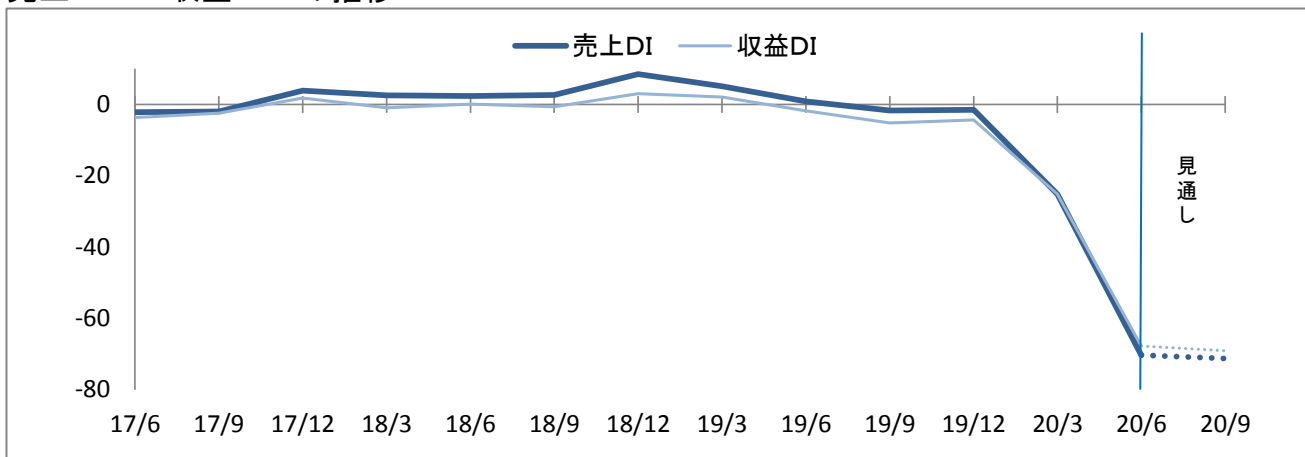
2020年7-9月期は、売上DIが0.9ポイント、収益DIが1.4ポイントわずかながらまだ下落すると予想しています。

経営上の問題点は「売上停滞減少」が79.2%（前回比+23.8ポイント）に急上昇しました。

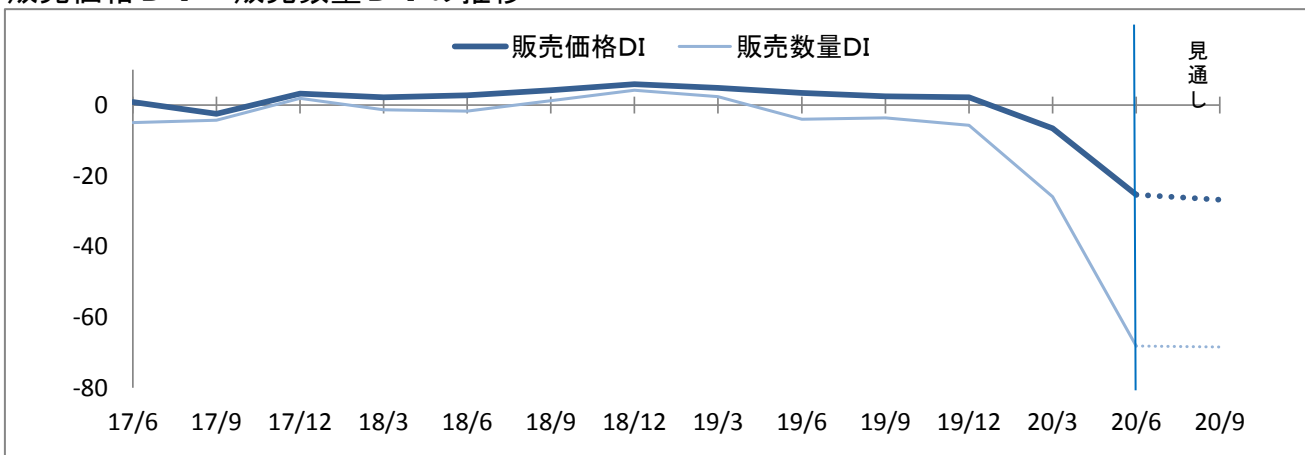
設備投資は「実施中」が11.5%（前回比+3.5ポイント）、「予定あり」が11.1%（前回比+3.2ポイント）で合計22.6%となりました。特に飲食業では来店客が激減し、テイクアウトや出前販売を行うために、バイクや厨房機器を購入する必要に迫られ、やむを得ず設備投資を行っていると思われます。

売上DI・収益DIの推移

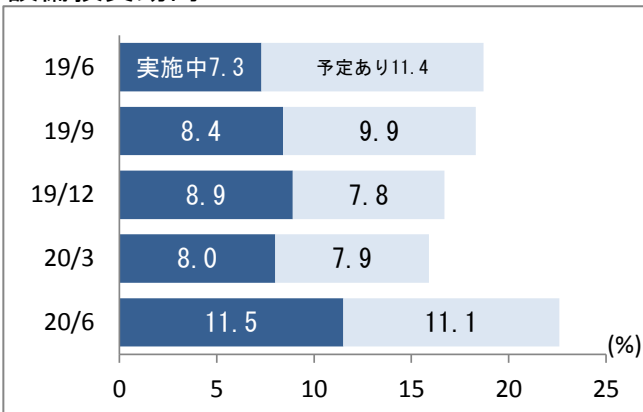
n=811



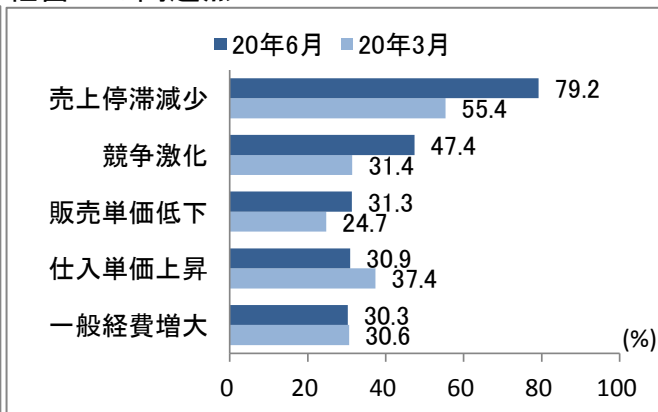
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：平山)

製造業

受注ない今がチャンス 設備投資急上昇

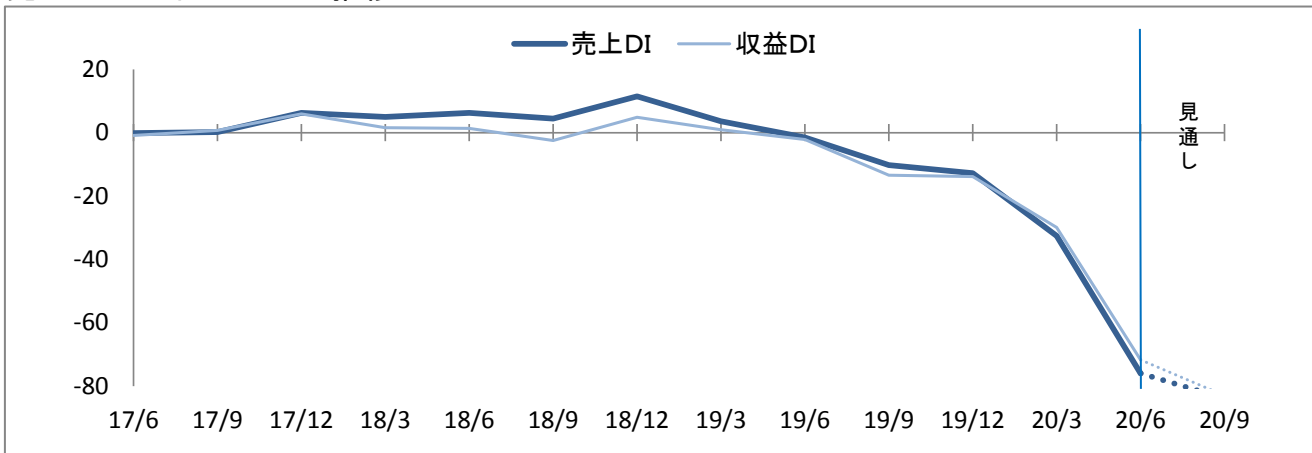
売上DIは-76.0（前回比△43.4ポイント）、収益DIは-71.7（前回比△41.8ポイント）と、売上DI・収益DIともに急落しました。2020年7-9月期は、売上DIが7.9ポイント、収益DIが11.3ポイントさらに下落すると予想しています。取扱品で見ると、特に売上DIの下落が大きいのは、木材、家具・建具、食料品で、前回調査からそれぞれ85.7ポイント、66.7ポイント、63.3ポイント低下しました。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が90.5%（前回比+23.8ポイント）に急上昇し、今後の売上回復は厳しいと思われます。中国からの部材の輸入は依然困難で、受注はほぼない状況です。

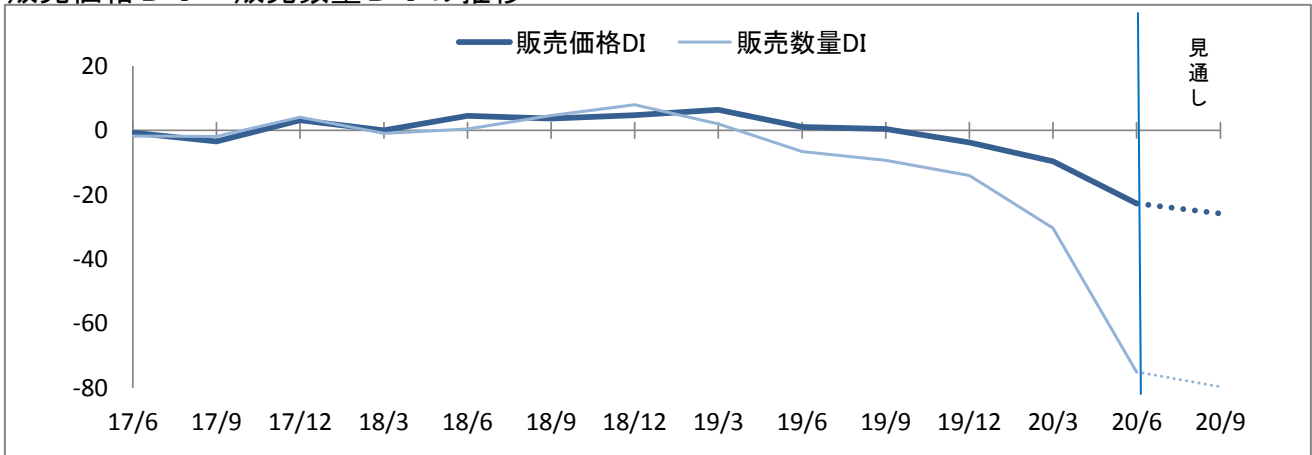
設備投資は「実施中」が11.0%（前回比+1.2ポイント）、「予定あり」が14.8%（前回比+6.9ポイント）で合計25.8%と急増しました。資金調達方法は、全て自己資金が35.9%となり、比較的小規模な投資が中心と思われます。プラスチック加工業では、フェイスシールドや防護服の受注が急増し、付属設備や専用ラインを導入した企業があります。また食品製造業では、販売先の不振で生協向け販売強化に向け、パッケージ製造機を導入した企業があります。ものづくり補助金の補助率引き上げも設備投資を押し上げた要因の一つと思われます。

売上DI・収益DIの推移

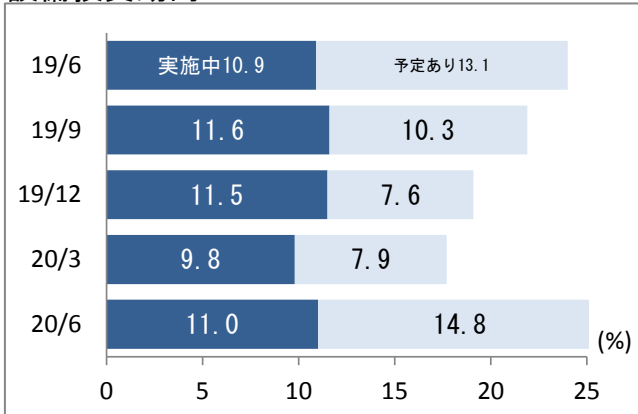
n=267



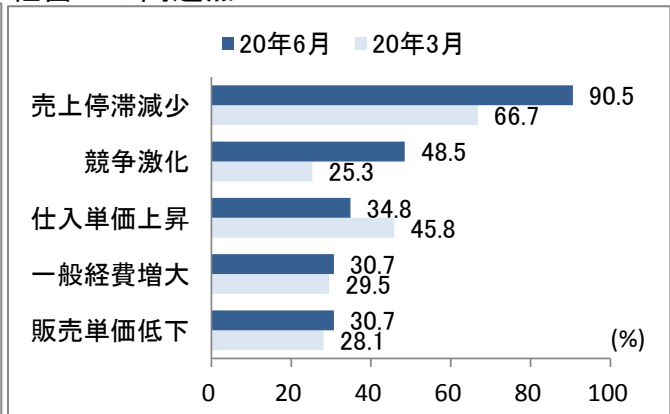
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：稲津、萩原)

卸売業

需要回復目途立たず

売上D Iは5期連続で悪化し-72.9（前回比△44.5ポイント）、収益D Iは-69.2（前回比△36.3ポイント）と、売上D I、収益D Iともに急落し、経営上の問題点は「売上停滞減少」（前回比+23.5ポイント）が急上昇しています。

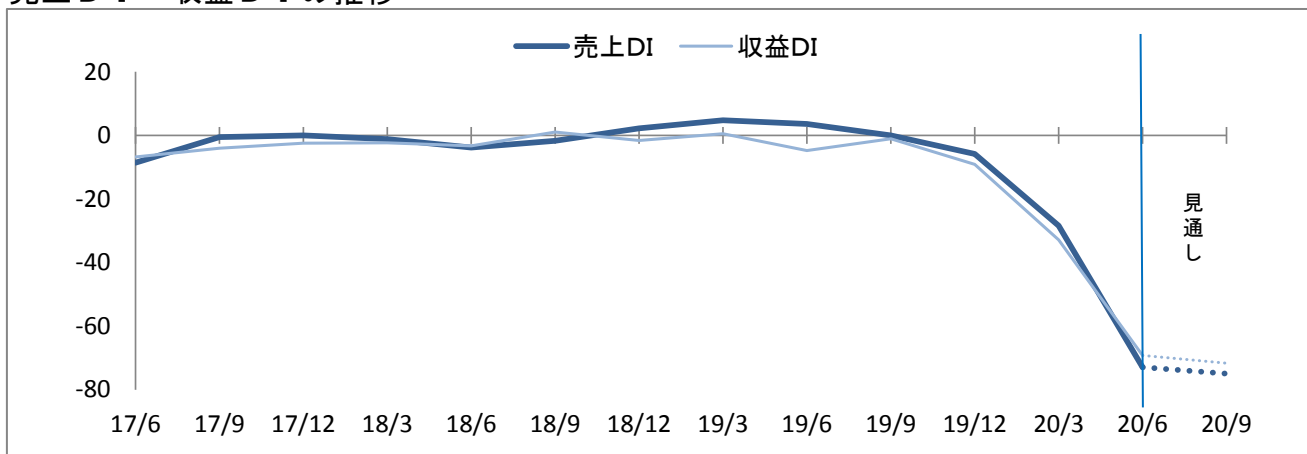
取扱品で見ると、特に売上D Iの下落が大きいのは、建築材料、飲食料品で、前回調査からそれぞれ59.7ポイント、41.6ポイント低下しました。新型コロナウイルス感染症による影響で、建築関連では依然水回り設備の搬入遅れが続き、飲食関連では販売数量が急減し大きな影響が出ています。

2020年7-9月期は、売上D Iは2.0ポイント、収益D Iは2.5ポイントさらに下落すると予想し、売上回復の見通しは厳しく考えています。

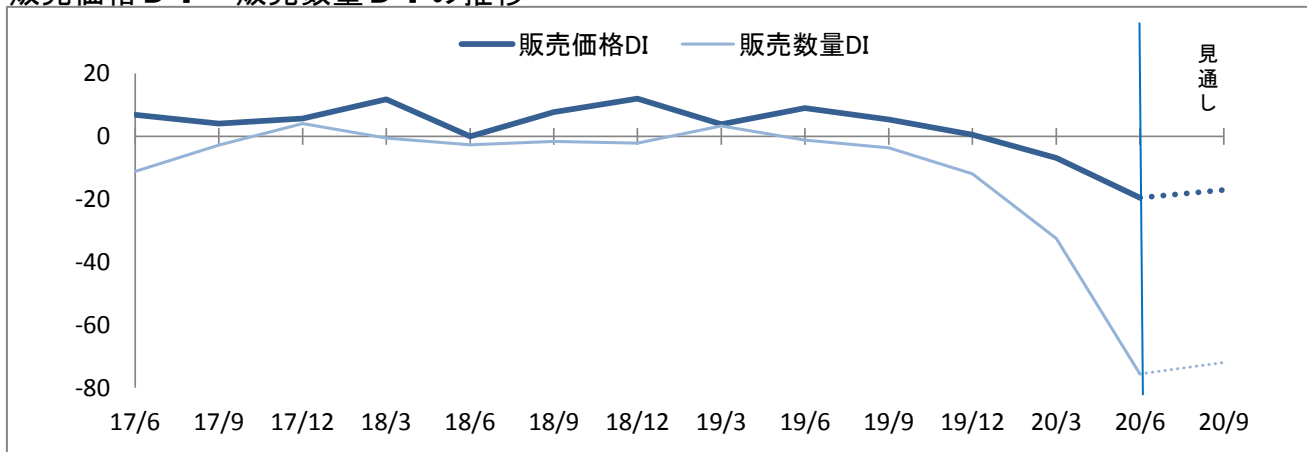
設備投資は「実施中」9.9%（前回比+7.0ポイント）、「予定あり」が3.7%（前回比△3.9ポイント）で合計13.6%となりました。資金調達方法は「全て自己資金」が70.0%となり、注文の少ない時期に、機械や店舗設備など比較的小規模な設備投資が多いと思われます。カット野菜卸売業者では、今後の受注増加に備えて冷蔵庫を購入する企業や、水産加工卸売業では売上の不振を補うため、自ら飲食店を開業する企業があります。

売上D I・収益D Iの推移

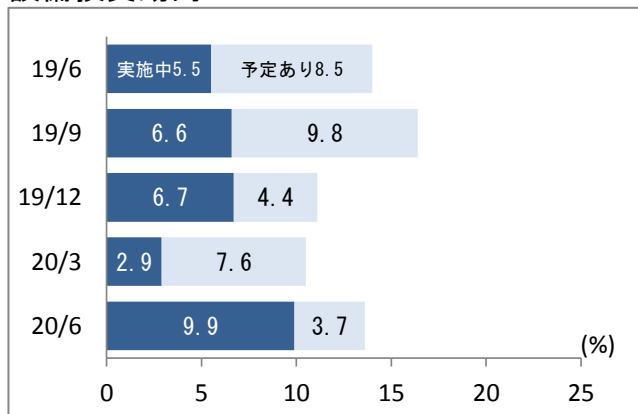
n=82



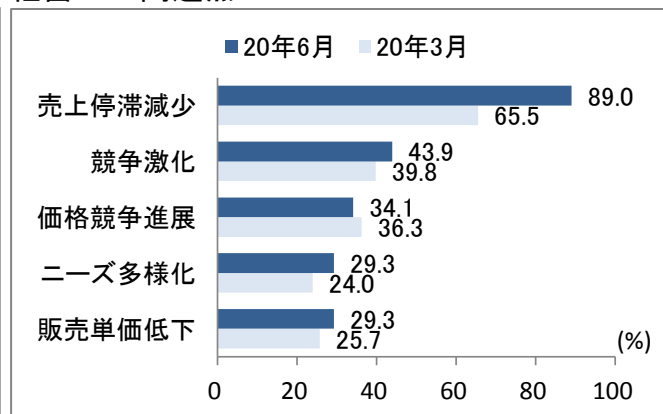
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：中村、藤村)

小売業

落ち込む消費マインド 見通し厳しく

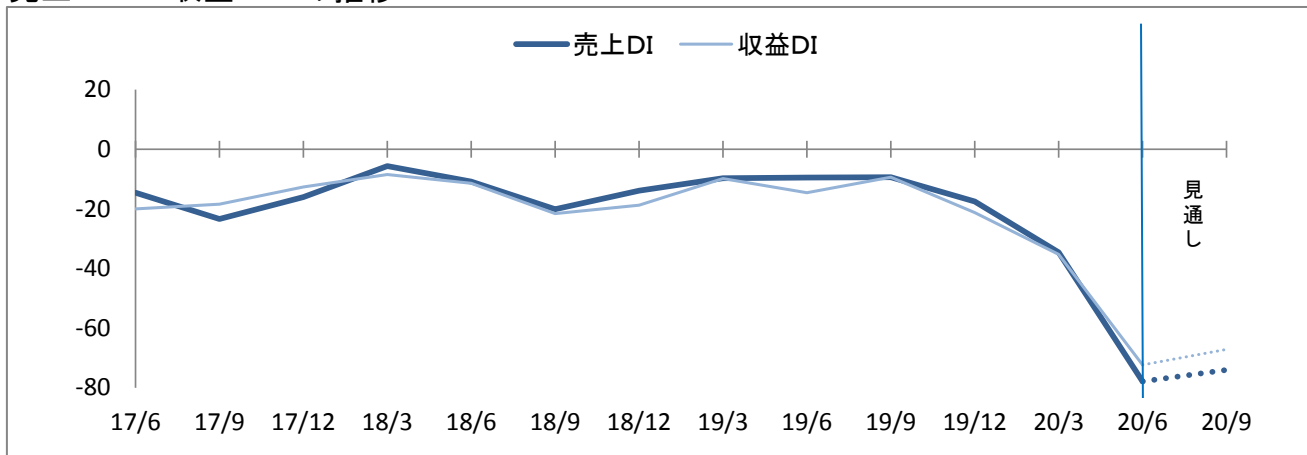
売上D Iは-77.9（前回比△43.3ポイント）、収益D Iは-72.3（前回比△37.0ポイント）と売上D I、収益D Iともに急落し、経営上の問題点は「売上停滞減少」（前回比+13.4ポイント）が急上昇しています。取扱品で見ると、特に売上D Iが急落したのは繊維製品、飲食料品で、前回調査からそれぞれ58.3ポイント、51.6ポイントと大きく低下しました。外国人観光客の急減や消費者の外出自粛要請による影響を大きく受けています。中国からの輸入が減少し、欠品を防ぐため国内仕入により在庫を増加させましたが、景気回復時期が見通せず、過剰在庫となる企業も出てきています。

2020年7-9月期は、売上D I、収益D Iともに僅かながら上向くと予想していますが、緊急事態宣言解除後も消費マインドの回復は厳しいと考えています。

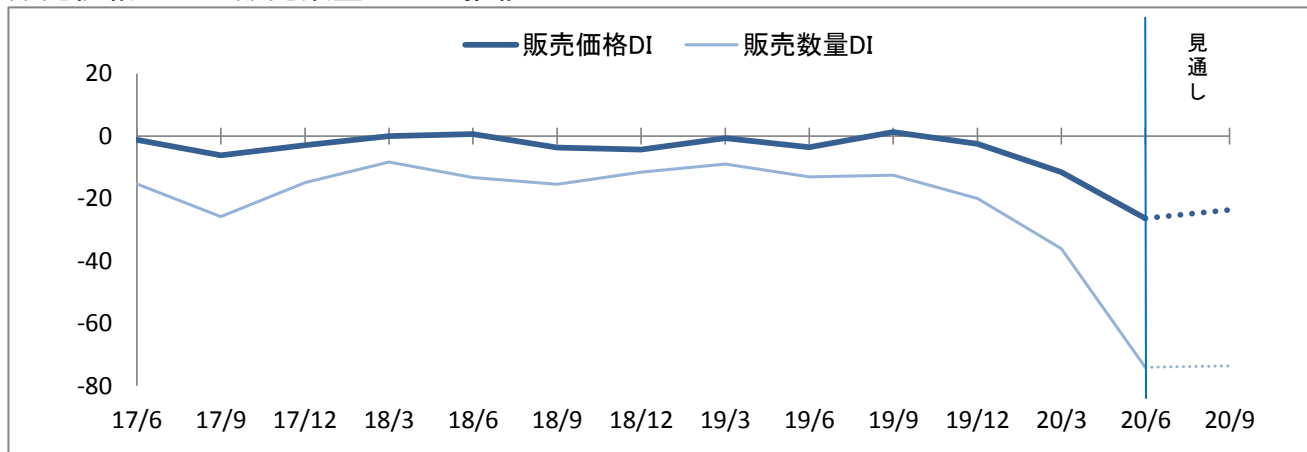
設備投資は「実施中」が5.6%（前回比△0.9ポイント）、「予定あり」が9.9%（前回比+4.1ポイント）で合計15.5%となりました。包丁小売業者では、I T補助金を活用し外国人向けHPを作成し新しいビジネススタイルにチャレンジする企業があります。また、アウトレット家具小売業では車両の買替だけでなく、新店舗出店を検討する企業があります。資金調達方法は、「半分以上借入する」が45.4%となりました。

売上D I・収益D Iの推移

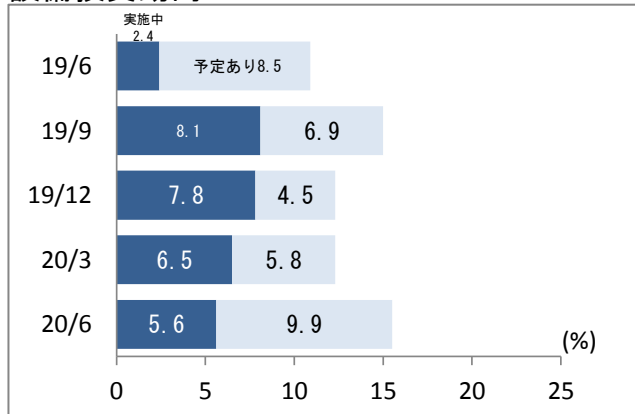
n=77



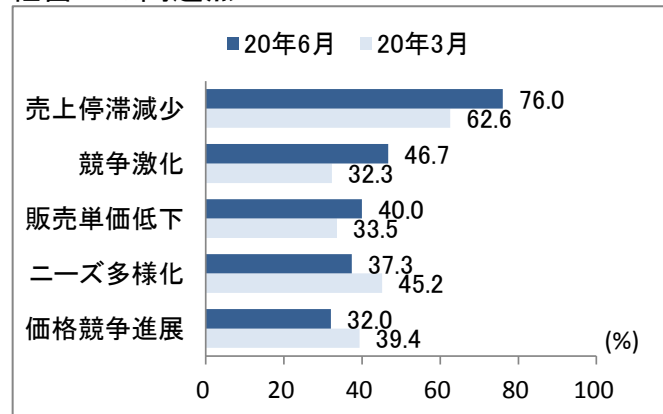
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：井筒、宗和)

飲食業

壊滅的打撃 瀕死の飲食業

売上D Iは-78.1（前回比△38.3ポイント）、収益D Iは-75.6（前回比△43.0ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに急落しました。リーマンショック後、2009年12月期に記録した売上D I -63.9を超え、調査開始以来、最低のD Iとなりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、インバウンド需要の減少や消費者の外出自粛要請による影響を大きく受けています。

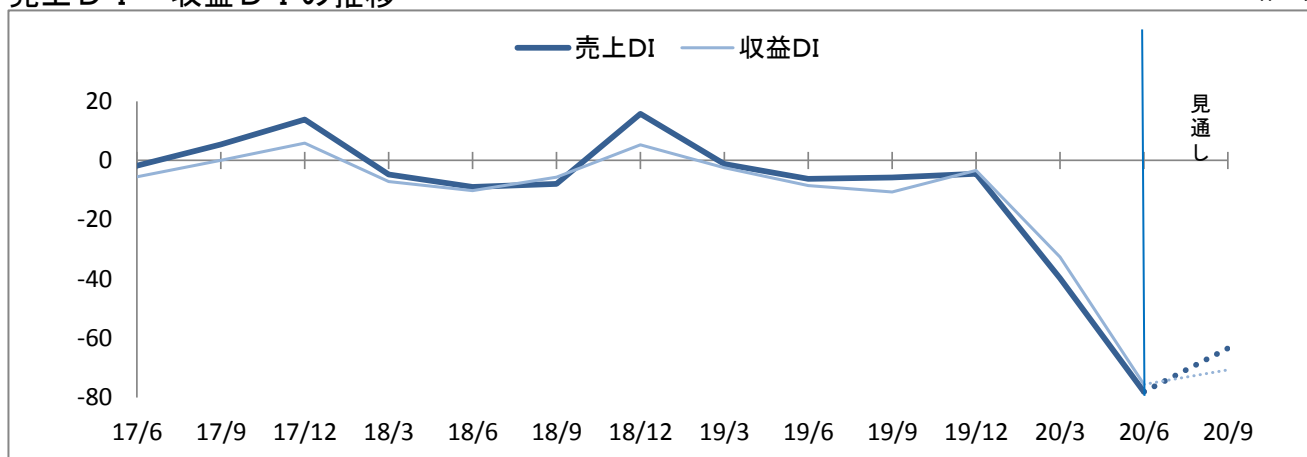
経営上の問題点は、「売上停滞減少」が69.2%（前回比+13.8ポイント）と最大の問題点となったほか、「競争激化」が53.8%（前回比+26.1ポイント）に急上昇しました。感染症対策を行いながらの営業再開であるうえに、同業者との顧客の争奪戦が繰り広げられています。

2020年7-9月期は、緊急事態宣言が解除され徐々に顧客が戻ることを期待し、売上D I、収益D Iともに上昇すると予想しています。

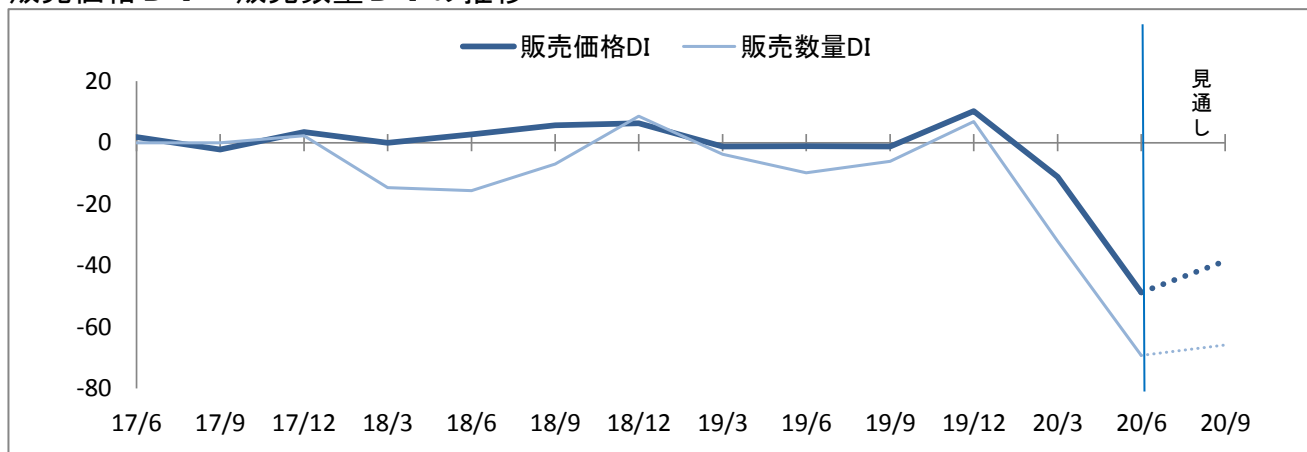
設備投資は「実施中」が25.6%（前回比+20.7ポイント）、「予定あり」が10.3%（前回比+1.7ポイント）で合計35.9%となり、「実施中」が急上昇し、資金調達方法は、「全額借入する」が33.3%となりました。テイクアウトや出前販売を行うためバイクや厨房機器の購入や、セミセルフレジ、パーテーション、空気清浄機を購入する企業が多く、経営が苦しいなか設備投資を行っています。

売上D I・収益D Iの推移

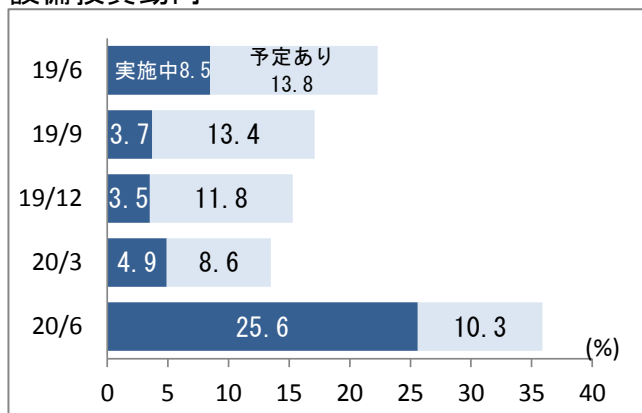
n=41



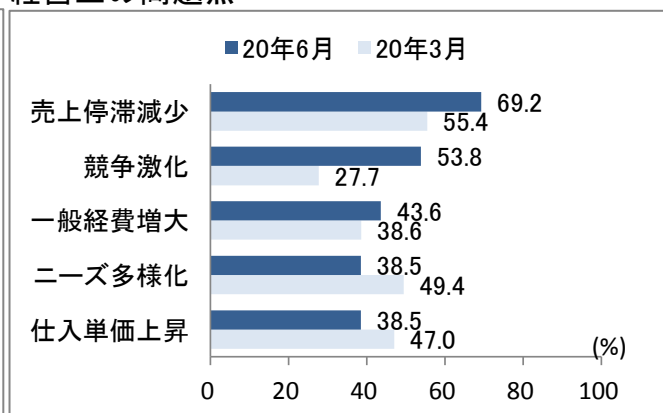
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：仲井、竹並)

建設業

受注急減 続き設備搬入遅れ

売上D Iは-46.4（前回比△39.5ポイント）、収益D Iは-49.9（前回比△39.0ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに急落しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、水回り設備の搬入遅れは依然続き、販売数量が減少しています。

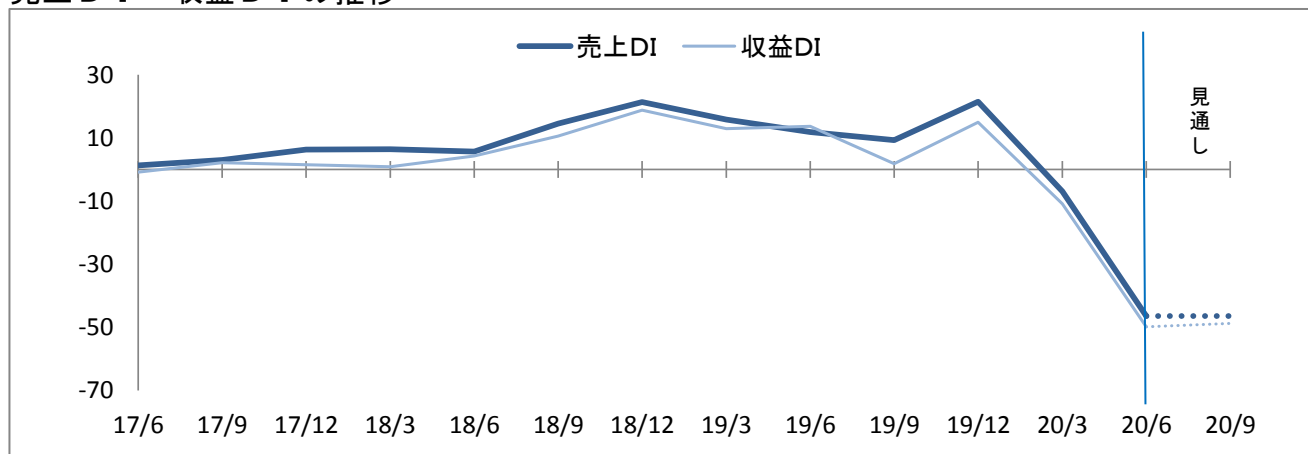
2020年7-9月期は、材料や設備の搬入遅れの解消には時間を要し、売上D I、収益D Iともに横ばいと予想しています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が66.4%（前期比+20.1ポイント）、「人手不足」が53.8（前回比+1.4ポイント）となりました。また「競争激化」が50.4%（前回比+20.7ポイント）と急増しており、少ない受注の争奪戦が繰り広げられています。

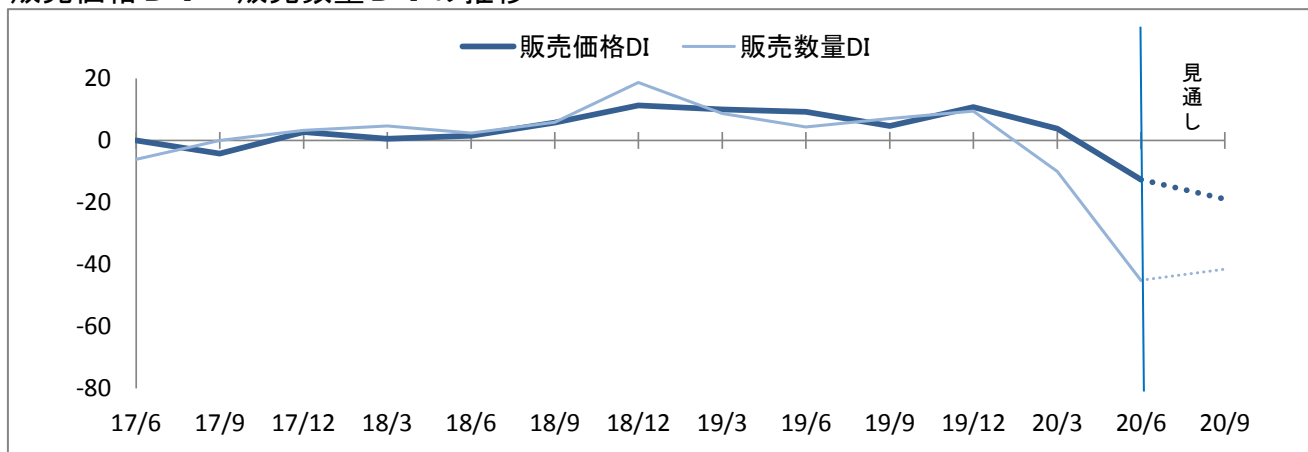
設備投資は「実施中」が9.3%（前回比+0.9ポイント）、「予定あり」が9.3%（前回比+1.3ポイント）で合計18.6%と前回調査から上昇しました。資金調達方法は、「全て自己資金」が28.6%、「一部借入する」が28.5%となりました。人手不足を補う設備投資だけでなく、今後の受注回復を期待して車両やボーリング工事で使う杭打機の買替を行う企業ができました。

売上D I・収益D Iの推移

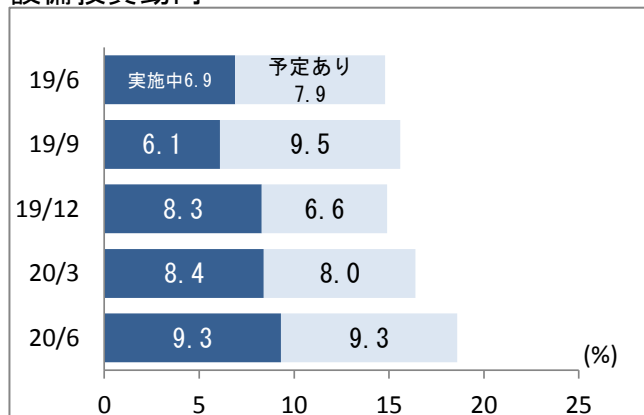
n=126



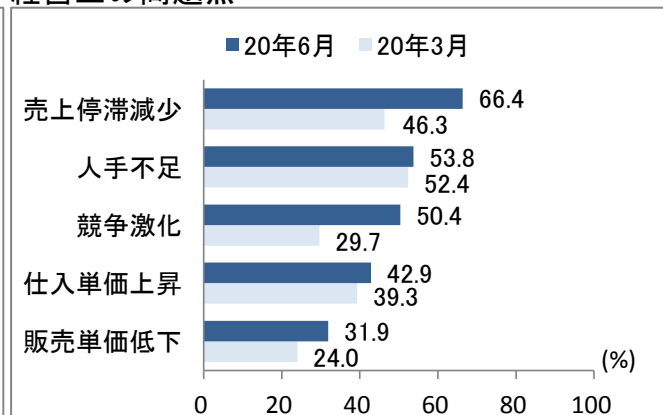
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：仲井、楠)

サービス業

競争激化 顧客呼び戻せるか？

売上D Iは-72.9（前回比△48.8ポイント）、収益D Iは-71.8（前回比△48.0ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに急落しました。売上D Iは、人材派遣やマッサージなど医療関係で前回調査から大きく落ち込みました。

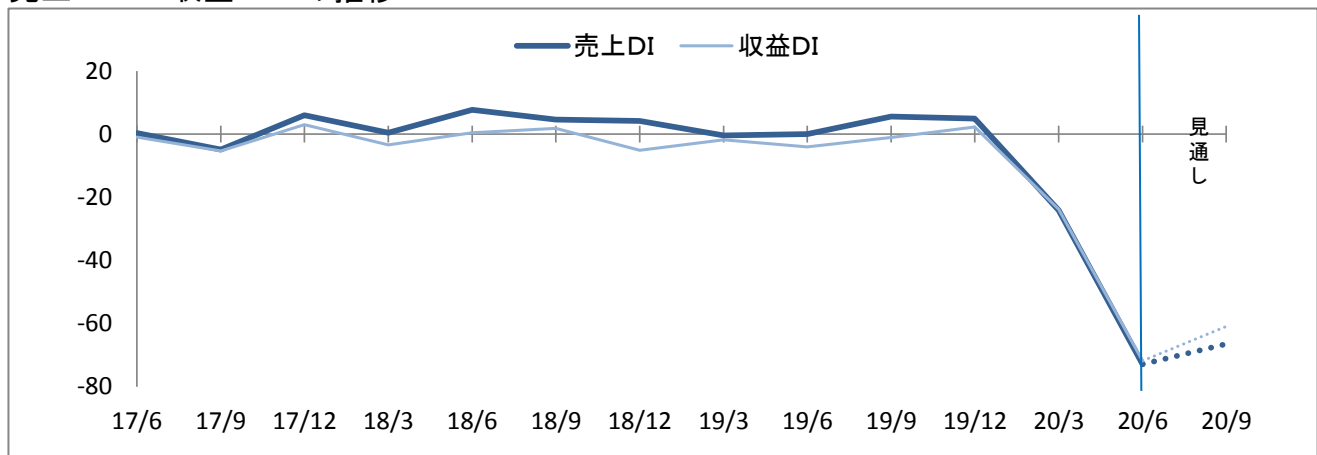
新型コロナウイルス感染症の影響は、外国人観光客などが急減したホテルなど宿泊業だけでなく、他のサービス業にも悪影響を及ぼしています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少が」69.5%（前回比+36.2ポイント）、「競争激化」（前回比+12.3ポイント）「人手不足」が35.4（前回比△2.8ポイント）となり、緊急事態宣言の解除後は、同業者間の競争が激化しています。

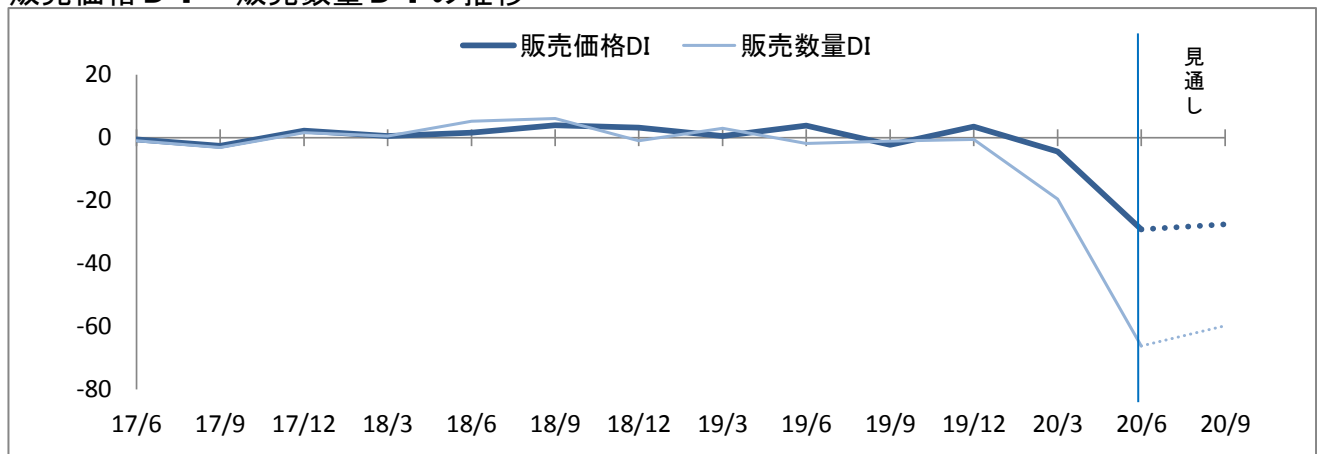
設備投資は「実施中」が16.3%（前回比+7.4ポイント）、「予定あり」が11.6%（前回比+3.3ポイント）で合計27.9%となり、設備投資意欲は上昇しました。資金調達方法は、「全額借入する」が34.8%となり、来店客が減少した時期に機械設備の購入や買替など小規模な設備投資を実施し、今後の営業に備えています。美容室や介護施設、マッサージ業では、空気清浄機や消毒液、パーテーション設置などの設備投資を実施しています。

売上D I・収益D Iの推移

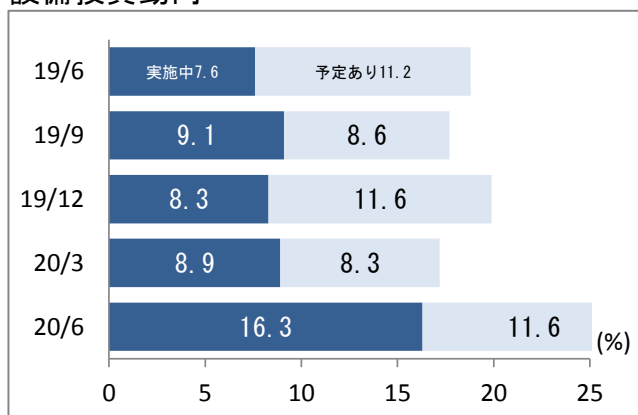
n=94



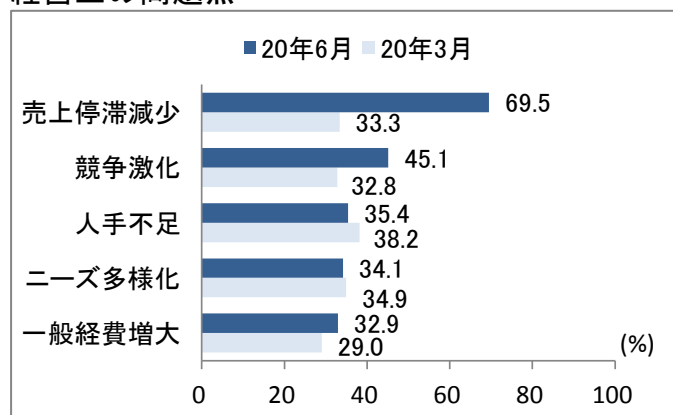
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士：芝田、楠)

運輸業

走らぬトラック 消えた荷物

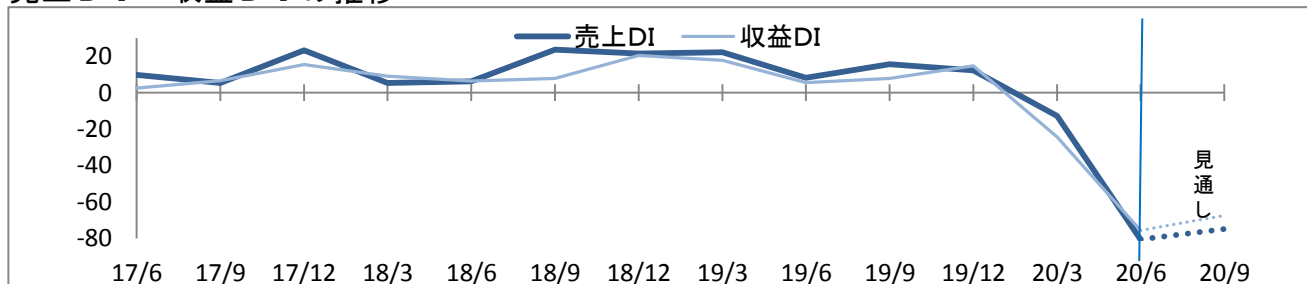
売上D Iは-80.6（前回比△67.8ポイント）、収益D Iは-75.6（前回比△51.3ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに急落しました。個人消費の低迷から物が売れず、また他業種の休業に伴い物流量が急激に落ち込んだことが要因といえます。

経営上の問題点は「売上の停滞減少」が77.5%（前回比+22.2ポイント）に急上昇する一方、受注単価の低下が35.0%（前回比+19.2ポイント）と進んでいます。

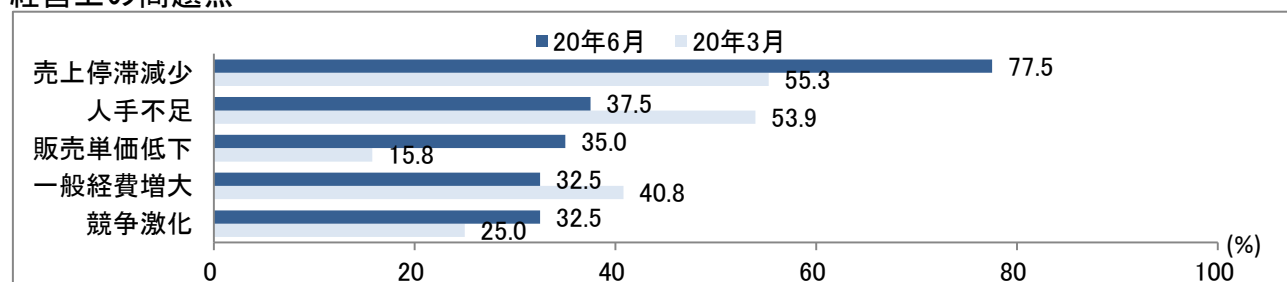
全業種で売上回復の見通しは厳しく、運輸業の業況低迷は長引くと思われます。

売上D I・収益D Iの推移

n=41



経営上の問題点



(中小企業診断士：井筒、福井)

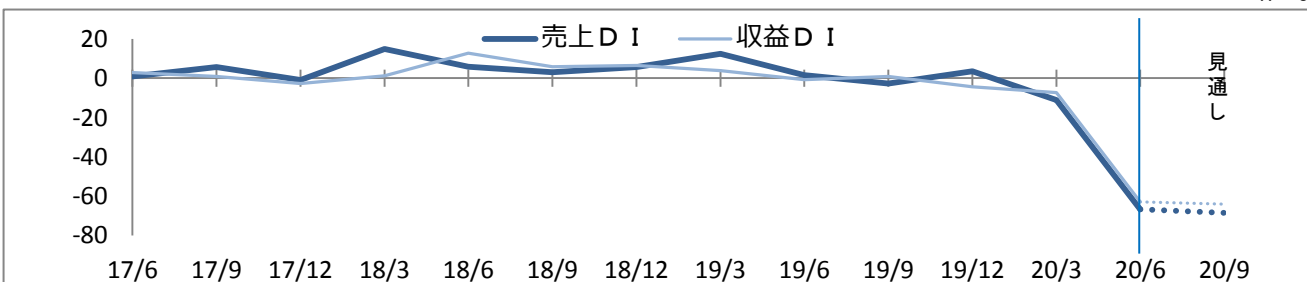
不動産業

消費マインド回復 見通し立たず

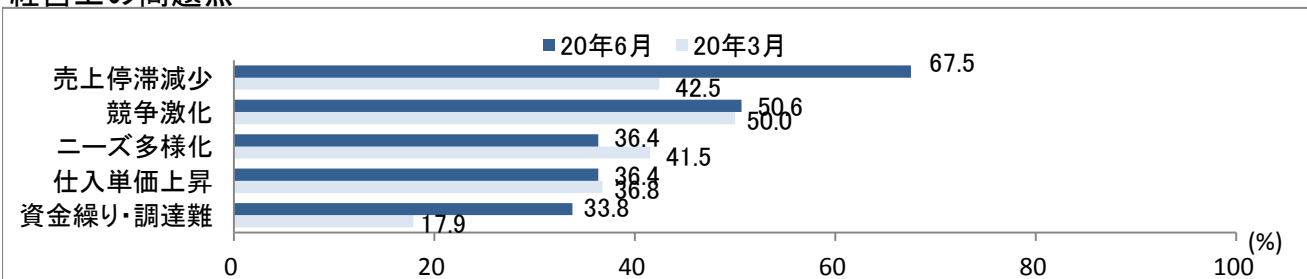
売上D Iは-66.7（前回比△55.6ポイント）、収益D Iは-62.9（前回比△55.5ポイント）となり、売上D I、収益D Iともに急落しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、顧客からの問い合わせや新規顧客は減少し、売上回復の見通しは厳しい状況にあります。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が67.5%（前回比+25.0ポイント）と急上昇しました。また「資金繰り・調達難」が33.8%（前回比+15.9ポイント）と上昇しており、不動産仲介手数料や家賃収入が減少し、今後の資金繰りが危惧されます。

n=83



経営上の問題点



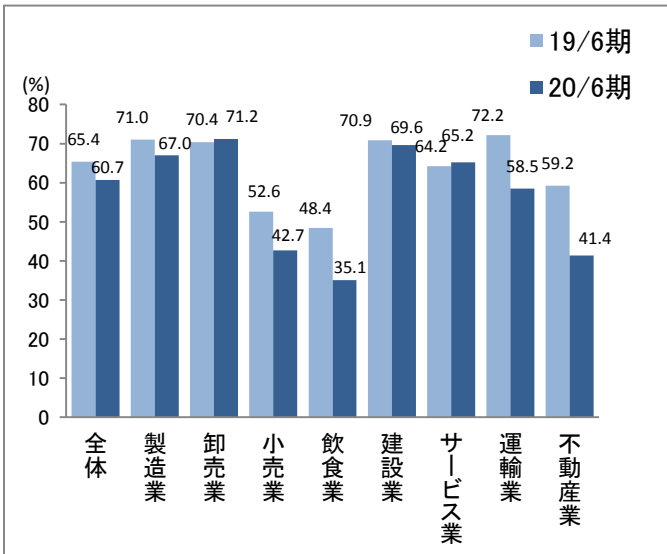
(中小企業診断士：芝田、中村)

夏季賞与支給状況

苦しい夏季賞与 支給企業・支給額減少

夏季賞与(業種別)

回答企業数:811社



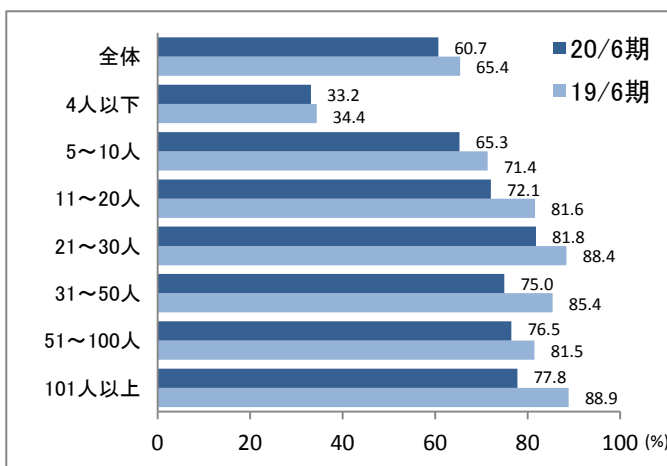
夏季賞与について、「支給する」が60.7% (昨年比△4.7ポイント) となりました。

新型コロナウイルス感染症による影響から、夏季賞与を支給する企業は昨年よりも減少しました。特に、飲食業や運輸業、不動産業では、売上の大きな下落を背景に、前回から大きく落ち込みました。

卸売業やサービス業では、人材確保のため経営が苦しい中でも支給する企業が増加しています。

夏季賞与(従業員数別)

回答企業数:441社

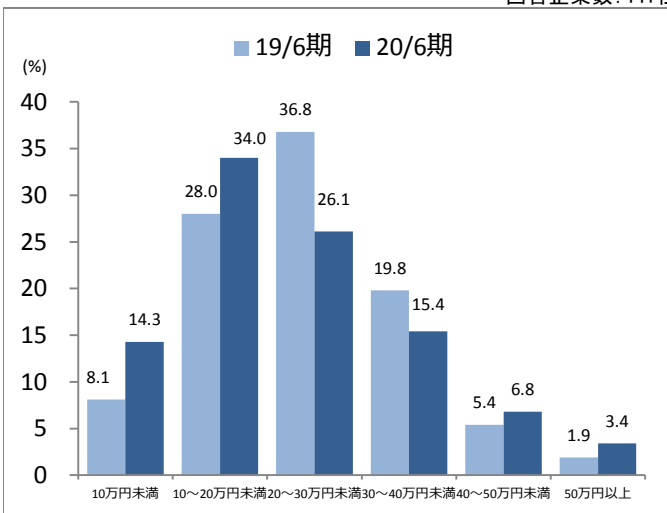


新型コロナウイルス感染症による影響で売上が急速に落ち込み、従業員規模にかかわらず、夏季賞与を支給する企業は減少しました。

中でも、「31~50人」は75.0% (前回比△10.4ポイント)、「101人以上」は77.8% (前回比△11.1ポイント) となり、従業員数が多い企業では、ボーナスを支給する企業は減少しています。

夏季賞与(金額別)

回答企業数:441社



金額別での支給状況については、「10~20万円未満」が34.0%と最も多く、次いで「20~30万円未満」が26.1%、「30~40万円未満」が15.4%となりました。

昨年と比較して、売上の急落を背景に支給額を減額する企業が増加しています。